



椎葉のことばのよさ

6月11日の朝日新聞の天声人語に、「若者言葉に驚いた」という記事がありました。

夕方バス停での会話が耳に飛び込んできました。中学生らしき制服姿の女の子が次のように話したそうです。

「きのうさー、先生にさあ、ボロクソほめられちゃったんだ。」

女の子の表情は楽しげな笑顔です。筆者は、「ボロクソ」は否定的な文脈で使うのだと、彼女らを諭すのはつまらない。言葉は生き物であると述べています。

この女の子のように、現代の若者が使う表現は「前髪の治安が悪い」「気分はアゲアゲ」など面白いものがたくさんあります。

その一部を紹介します。
皆さんは、意味が分かりますか？

- ①「好ハオ」 ②「てえてえ」
③「へんふよ」

- ① 好ハオと書いて「ハオ」と読みます。文字どおり「好き」という意味を持つ言葉です。

(例文)「新しいドラマの主人公好ハオ」

- ② 「尊い(とうとい)」がなまった若者言葉です。若者の間では純粋に「素晴らしい」「最高」といった使われ方をします。
好きな人物・キャラクターを意味する「推し」という言葉とあわせて使われます。

(例文)「今日も推しがてえてえ」

- ③ 「返信不要」を省略した若者言葉です。チャットツールで連絡する際に使われることが多い言葉です。

(例文)「おやすみ～！へんふよです」

大正時代、「とても」という言葉は「とてもかなわない」などのように否定形で使われていましたが、現代では「とても安い」など、肯定文でも使われるようになってきました。

時が変われば、正しい日本語も変化します。また、今時の若者は、SNSの文章に句点を記さないそうです。その理由は、「。」を付けると冷たい感じがするからだそうです。元々、日本語に句読点がなかったのを思えば、こちらは原点回帰なのではないでしょうか。

さて、このような時代の中、椎葉村の第6次長期総合計画の中に、未来像が示されています。

『年齢や居住地、性別、その他一切の違いを受け入れ合い、多様な人たちが「かえりたい」「繋がってほしい」と思えるようなコミュニティを「かて～り」という相互扶助の精神に基づいて住民みんなで作っていく社会』

この椎葉村の第6次長期総合計画を基に「第2期椎葉村教育振興基本計画」が策定されており、新しい施策の一つとして「椎葉村学」が創設されました。

「椎葉村学」のねらいは2つあります。

- ① 村に暮らす住民の思いや願いを受け止め、椎葉村での昔からの暮らしを丸ごと理解できるようにする。
② 児童生徒が自分自身の中で、ふるさと椎葉村を見つめなおし、将来にわたって関わり続けようとする郷土愛を培う。

「椎葉村学」は、小学3年～中学3年の総合的な学習の時間で実施されます。

椎葉村学の小学校における各学年の学習テーマは、次の通りです。

「椎葉村のよさを知り、自分の願いをまとめる」

小3年：方言、小4年：神楽

※本年度は3・4年で「方言」を学習

小5年：複合型農林業、小6年：民謡

多くの人が使えばそれが当たり前になっていく現代語と違い、3・4年生が学習する「方言」は、地域特有の言葉で大切にしたいものです。この学習をとおして、椎葉の言葉のよさについて考え、自分が住む地域や椎葉村に対する愛着を高めることができるのではないのでしょうか。



写真下
(椎葉信紘様)



写真上
(山中重光様)

地域の方の方言を聞いて考えたり、一緒に学んだりしています。学校内で、時々方言を使う場面も見られるようになりました。